

国際化推進

○学生の海外派遣奨励金

交換留学、語学研修、体験学習等を行う学生に支給しました。

	大学名・研修先等	受給者数
交換留学	マンチェスター大学（イギリス）	1名
	アテネオ・デ・マニラ大学（フィリピン）	1名
短期語学研修 （夏季）	英語・イギリス文化研修（イギリス・マンチェスター大学）	7名
	韓国語・文化研修（韓国・檀国大学校）	6名
	中国語・台湾文化研修（台湾・淡江大学）	3名
短期語学研修 （春季）	ドイツ語・文化研修（ドイツ・ミュンヘン大学）	1名
体験学習	オーストリアH.I.S.インターンシップ	1名
	韓国シアター文化インターンシップ	2名
	Davisプログラム（グローバル社会における私たちの食・環境） （アメリカ・カリフォルニア大学デイビス校）	14名
その他	EATプログラム（アジア3大学が共同実施する食文化プログラム） （韓国・梨花女子大学校）	10名
	マヒドン大学日本語教育実習（タイ）	10名



夏季短期研修 中国語・台湾研修（国立台湾博物館）



体験学習 Davisプログラム

○なでしこ・高木海外特別奨学金

交換留学を行う学生のうち、特に優秀と認められる学生に支給しました。

大学名	受給者数
マンチェスター大学（イギリス）	1名
ワルシャワ大学地理地域研究学部（ポーランド）	1名
淡江大学（台湾）	1名
マラヤ大学（マレーシア）	1名

○高木海外研修等奨学金

大学院の海外研修等に参加する学生に支給しました。

大学名	受給者数
マヒドン大学日本語教育実習（タイ）	1名

なでしこ海外特別奨学金受給者の声



台湾の街の風景

私は台湾の淡江大学に4か月間留学し、経済学や経営学を中心に学びました。現地の授業ではディスカッションやグループワークが多く、学生が主体となって議論を進める場面が印象的でした。特に、企業戦略やマーケティングに関するテーマでは、国や文化による価値観の違いが意見に表れ、自分の考えだけでは捉えきれない視点に気づくことができました。当初は発言することに慎重になっていましたが、周囲の学生の積極的な姿勢に刺激を受け、自ら意見を伝えることの重要性を実感しました。結果として、考えを整理しながら相手に分かりやすく伝える力が身についたと感じています。また、課題やレポートへの対応にも主体的に取り組むことで、計画的に学ぶ姿勢を養うことができました。授業外でも現地の友人と交流を深め、充実した時間を過ごしました。

このような貴重な経験を得ることができたのは、ご寄附いただいた皆様からのご支援のおかげです。心より感謝申し上げますとともに、今後ともご支援を賜れますと幸いです。

国際教養学科 高田侑李

教育研究

○学術研究助成

本学の学生（学部生・大学院生）及び卒業生（修了生を含む）が行う調査・研究活動に対し、経費の一部を助成する制度です。男女共同参画社会の実現や将来その研究成果が社会に還元されることを期待し、2025年度は以下の7件にそれぞれ5万円の助成を行いました。

採択研究テーマ

公募枠

- ・ 幼児期の国際教育に関連する主体的な食行動の特徴について
- ・ マレーシアにおける草の根NGO女性リーダーのリーダーシップ形成 -BJCK創設者 Siti Rahayu Baharin氏のライフストーリー分析-
- ・ 日本人自治体職員における3年間の食事の質の変化とLOX-indexとの縦断的関連

推薦枠

- ・ デンプン系高吸水性樹脂の合成と性質に関する研究
- ・ 20歳代女性における栄養知識とダイエット行動との関連
- ・ 年少者に向けたサバイバル日本語教材の開発
- ・ 中国恩施トゥチャ族ミャオ族自治州における教育に関するジェンダー格差の現状と課題

○女性リーダーシップセンター運営事業

女性リーダーシップセンターでは、リーダーシップに関する教育・研究・社会実践を体系的に推進しています。その中核事業の一つである「女性トップリーダー育成研修」は2025年度に開講10周年を迎えました。これを記念して開催した「10周年記念シンポジウム・交流会」では、これまでの歩みを振り返るとともに、今後求められるトップリーダー像について展望しました。また、本研修の特色でもある産学官のトップリーダーによる基調講演やその後の交流の場を設け、研修修了生をはじめ、受講生派遣企業、講師・パネリストとしてご登壇いただいた方々など、研修を通じて培われた業種や職種を超えた人的ネットワークを改めて強化し、関係者間の交流を一層深める機会となりました。

基金からのご支援は、本研修およびシンポジウムの開催をはじめとする女性リーダーシップセンター事業の運営に活用させていただきました。



10周年記念交流会

○国際フードスタディセンター運営事業

国際フードスタディセンターは、本学の100周年を機に「食をつなぎ創造する」をコンセプトに設置された食と栄養を通してすべての人々の尊厳と幸福を探究する研究拠点です。調査・研究、教育、アウトリーチの3部門で構成され、調査・研究部門では、「尊厳あるエイジングの実現を目指すバックキャスト型の社会実装研究」や、食と栄養に関する国際共同研究を推進しています。教育部門では、EATプログラムやDavisプログラム等の国内外の学修プログラムを通して、専門性の高い女性リーダー養成に取り組んでいます。アウトリーチ部門では、新たに「外部連携型食育事業」として、食品表示特別セミナー、防災・備蓄食学習セミナー、ワンヘルスの視点を取り入れた農業体験プログラム等を展開しています。基金からのご支援は、これらの事業の運営・充実に活用させていただきました。今後もグローバルな視点から食と栄養の課題解決および新たな食の創造に向けて取り組んでまいります。



ワンヘルスの視点を取り入れた農業体験プログラム（レンコン掘り）

学生に対する奨学支援

○大学院内部進学者奨学金

大学院内部進学者のうち、特に優秀と認められる学生に入学金の半額相当を支援しています。

研究科名	受給者数
人間環境科学研究科	2名

福岡女子大学フィルハーモニーオーケストラ・マンドリンクラブの活動支援

福岡女子大学フィルハーモニーオーケストラ・マンドリンクラブは、皆さまからのご支援を活用し、日々の練習や演奏活動を通じて音楽の魅力を発信しています。フィルハーモニーオーケストラは、毎年定期演奏会を開催しており、2025年11月4日には東市民センターなみきホールにて第3回定期演奏会を開催しました。こうした発表の場に向けて、指導者の先生方から専門的なご指導をいただき、技術力と表現力の向上に努めています。マンドリンクラブについては、楽器のメンテナンス費用や備品購入に対するご支援をいただき、充実した練習環境のもと活動しています。また、仲間とともに音楽を創り上げる喜びを大切に、活動を継続しています。

卒業式や入学式では、記念演奏や校歌演奏を通じて、式典に彩りを添える役割を担っています。これらの貴重な活動は、皆さまからのご支援によって支えられております。心より感謝申し上げますとともに、今後とも温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。



福岡女子大学フィルハーモニーオーケストラ



福岡女子大学マンドリンクラブ